

第27回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当学会の活動に顕著な貢献をした者に贈る。



水越 秀雄 君
(株式会社UACJ
マーケティング・
技術本部 主幹)

水越 秀雄 君は、1987年に住友軽金属工業株式会社（現 株式会社UACJ）に入社後、アルミニウム材料の特性評価および自動車産業をはじめとした用途開発に一貫して従事してきた。その開発の成果は、軽金属学会講演大会や第5回アルミニウム合金国際会議（ICAA5）で発表されている。学会活動の場は素材関連にとどまらず、塑性加工分野でも活動し、アルミニウム合金のエネルギー吸収特性やハイドロフォーム加工性などを研究して日本塑性加工学会、自動車技術会などにおいても多数の講演発表を行っている。

軽金属学会では、2015年から企画委員会の委員として、シンポジウム、軽金属セミナー等の企画・立案、実施に参画している。研究活動としては、材料・物性部会、強度評価分科会や押出型材の曲げ加工に関する研究部会、アルミニウムボディシート成形分科会などに参画した。また、日本アルミニウム協会では車両委員会委員として新幹線用材料の疲労強度評価に従事して報告書作成を担当し、自動車アルミ化委員会委員長として活動するなど、アルミニウム合金材料の輸送機用途開発および普及に貢献した。

研究部門から事業部へ異動後においても、学会活動を継続しつつ機械工学の知識と経験を活かして自動車部品の設計・開発に従事して用途の拡大普及に尽力している。

以上のように同君の軽金属学会に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。



本保 元次郎 君
(千葉工業大学 教授)

本保 元次郎 君は、1982年から約42年間にわたり千葉工業大学に奉職し、加熱鋳型式連続鋳造法（OCCプロセス）を用いたアルミニウム合金およびマグネシウム合金等の新材料開発に携わってきた。これらの功績が評価され、2021年に第19回軽金属功績賞を受賞している。

軽金属学会では、総務、大会運営などの常設委員会に複数参画し、学会運営を支えた。総合計画委員長、理事、監事および副会長を歴任し、学会の発展に大きく寄与した。また関東支部に属し、関東支部運営委員としても活躍した。2009年から2年間は、関東支部長として工場見学会や講演会等を積極的に企画・実施し、若手研究者の育成と軽金属学会の活性化に尽力した。関東支部若手ポスター発表会および若手研究者育成研究会等、現在も続く支部行事の基盤を作った。全国講演大会における実行委員としての経験も豊富であり、第109回秋期講演大会（2005年）では幹事として大会実行委員長をサポートした。第123回秋期講演大会（2012年）においては、大会実行委員長として大会を成功裏に収めている。

以上のように、地道かつ継続的な活動を通じ、長年にわたり軽金属学会の運営ならびに活動に参加し、本学会の発展に顕著な貢献をした。よってここに軽金属学会功労賞を授与する。



吉原 伸二 君
(株式会社神戸製鋼所
素形材事業部門
長府製造所品質保証部
アルミ押出品品質保証室
室長)

吉原 伸二 君は、1992年に株式会社神戸製鋼所に入社以来、アルミニウム押出用合金の技術開発に従事してきた。切削用6000系アルミニウム合金押出材の鉛フリー化を進め、シリコン添加量を適正化し、組織制御した新合金を開発し、その切りくず折断性メカニズムを明確化し製品実用化を推進した。また、自動車の衝撃吸収部材用の合金開発を進め、コア技術である圧壊割れメカニズムを解明し、実用化を図った。本技術は、自動車バンパーレインフォース用高強度7000系アルミニウム合金の開発とその量産化に貢献した。これらの成果は、軽金属学会の講演大会や研究論文等で公開され、第12回軽金属属躍進賞（2013年度）を授与されている。

本学会の運営では、九州支部の活動に尽力し、2006年から2022年度まで評議員・運営委員、2021年から2022年度には副支部長を務めた。さらに、第110回春期大会（2006年）、第122回春期大会（2012年）および第134回春期大会（2018年）では、実行委員として大会運営に多大な貢献をした。また、研究部会の部会員、講演大会の座長やポスター審査員、投稿論文の査読およびシンポジウムの講演者も務めており、本学会の発展に大いに貢献してきた。

以上のように、同君の長年にわたる軽金属学会に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。